

# BST-G.TM3

2012年2月14日のバージョンアップで変更された点

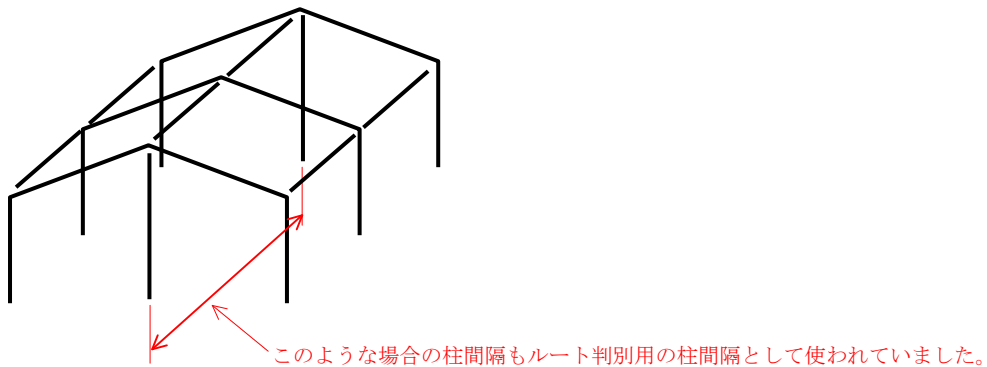
インストールファイル **BST-G.TM3\_0104\_20120214\_01.exe** (以下、最新版)

ルート判別用の柱間隔は配置されている柱の間隔のみで判断していました。  
これでは不都合が発生することもあるので、今回その判断方法を改善しました。

## ■ 変更前の処理方法

ルート判別用の柱間隔は配置されている柱の間隔のみで判断していました。

例：



(この他にも色々なケースはありますが、ここでは割愛します)

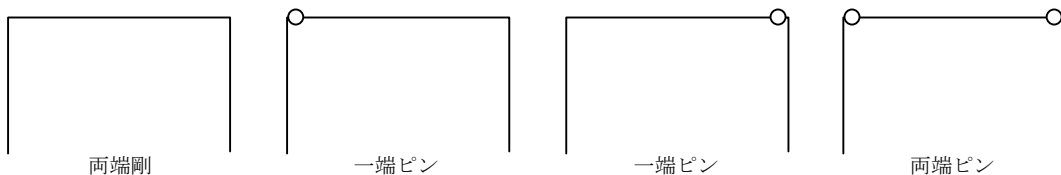
このような不具合を改善するため、

インストールファイル「**BST-G.TM3\_0104\_20120214\_01.exe** (以下、最新版)」  
以降ではルート判別用の柱間隔の判断を以下のように変更しました。

## ■ 柱間隔が1スパンの場合

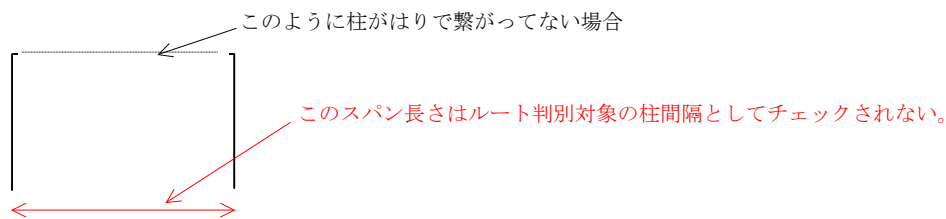
(1) 柱頭をつなぐはり配置されていれば、そのはりの端部状態に関わらず柱間隔の判断対象とします。

(柱間隔の判断対象とする時の例)



(2) 柱頭をつなぐはりが無い場合は、柱間隔の判断対象外とします。

(柱間隔の判断対象外とする時の例)

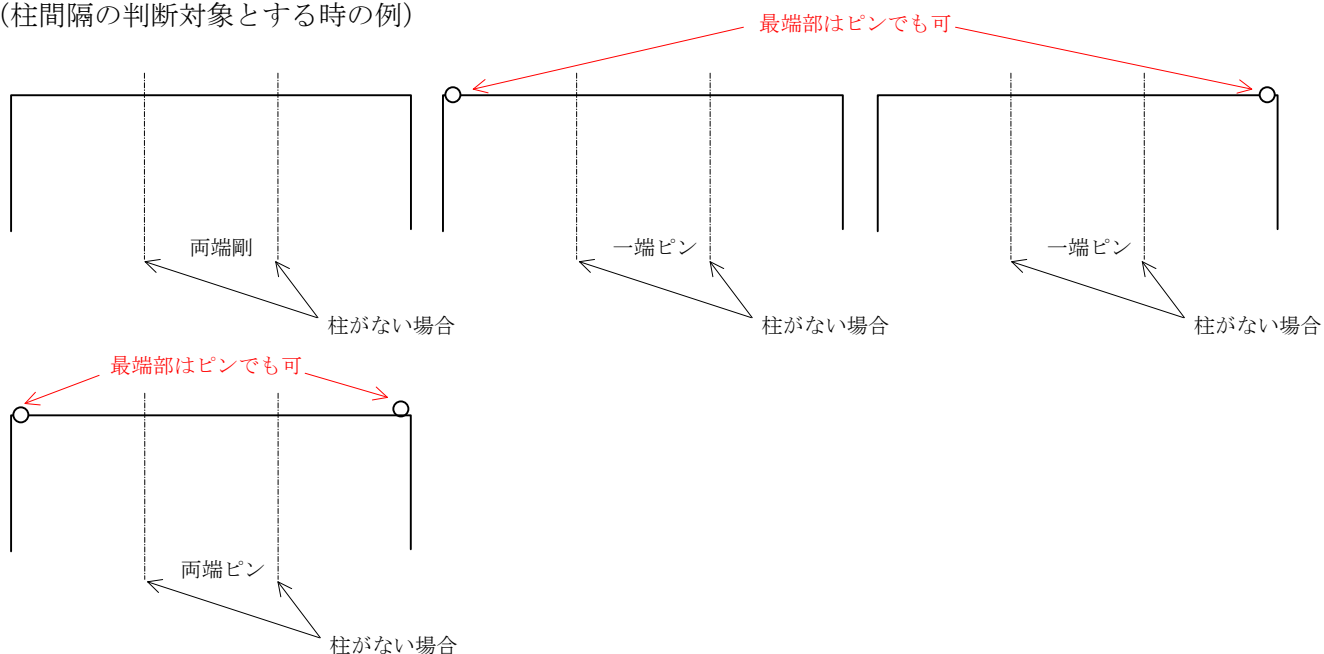


### ■ 柱抜けにより柱間隔が多スパンに渡っている場合

(1) 柱頭を繋ぐはりが途中で抜けることなく、連続した1本のはりの状態で繋がっている場合は柱間隔の判断対象とします。

但し、連続した1本のはりとした時の両端部はピンでも可とします。

(柱間隔の判断対象とする時の例)



(2) はり抜け箇所がある時または中間にピンを含む場合は柱間隔のチェック対象外とします。

(柱間隔の判断対象外とする時の例)

